

きゅうしゅう

NO.48



写真提供：海上自衛隊第22航空群司令部広報室

目次 CONTENTS

1. 部隊紹介

海上自衛隊 大村航空基地

2. 自治体紹介

長崎県大村市

3. 業務紹介

4. インフォメーション

日米共同訓練(オエント・シールド19)の支援

西部方面隊記念行事で広報活動

九州防衛施設地方審議会

在日米軍従業員永年勤続者表彰式



九州防衛局 Kyushu Defense Bureau

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>

編集・発行

九州防衛局 総務部

福岡市博多区博多駅東2丁目10-7 福岡第2合同庁舎

TEL092-483-8811

1. 部隊紹介

海上自衛隊 大村航空基地 第22航空群

群司令挨拶



第22航空群司令
海将補 岡田 真典



第22航空群
スコードロンマーク

「きゅうしゅう」をご覧の皆様、こんにちは。
第22航空群司令の岡田です。

第22航空群は、司令部を長崎県大村市に置き、長崎県大村航空基地や鹿児島県鹿屋航空基地、さらには徳島県小松島航空基地に展開するヘリコプター部隊です。

大村航空基地等に所在する哨戒ヘリコプターSH-60KやSH-60Jは、佐世保港や呉港などを母港とする護衛艦に派遣され、ソマリア沖アデン湾での海賊対処活動や東シナ海等での警戒監視任務など遙か洋上で様々な任務に従事しています。

また、大村・鹿屋の両航空基地には、UH-60J救難ヘリコプターが配備され、各種救難活動に従事するほか、長崎県や鹿児島県の離島からの緊急患者輸送に当たっております。

近年の海上交通の安全確保など一国のみでは対応が困難な安全保障上の課題の顕在化に、米国等の関係各国と連携して、我が国の平和と独立、そして国民皆様の安心、安全を守るべく精進してまいります。

私たちの高い士気や強固な使命感は、部隊の所在する地域の皆様方をはじめとする国民皆様からの期待と信頼に支えられておりますので、これからも、温かいご理解とご支援をお願いいたします。

第22航空群は、大村航空基地(長崎県大村市)と小松島航空隊(徳島県小松島市)に所在し、哨戒ヘリコプター及び輸送救難ヘリコプターを運用する部隊、航空機の整備・補給を担当する部隊、隊員の福利厚生等の後方支援を担当する部隊からなっており、西日本周辺海域の防衛警備に従事するとともに、警戒監視、沿岸防衛(不審船対処等)、災害派遣、捜索救難、輸送、大規模災害対処等に従事しています。また、県知事からの要請を受け離島からの急患輸送を実施しており、鹿屋(鹿児島県鹿屋市)に分遣隊があります。



部隊紹介



地域との交流



大村航空基地祭



四部隊合同記念行事



クリスマスコンサート



生活体験入隊



基地見学



慰霊祭支援



おおむら夏越まつり



各種イベント参加



ボランティア活動

災害派遣等



被災現場偵察



物資輸送



人命救助




被災者輸送



離島からの急患輸送



県防災ヘリやドクターヘリが対応できない夜間や天候不良時、県知事からの要請を受け医療施設が不足する離島での急患輸送等を行っています。
平成30年9月急患輸送が累計5000回に達し、同年12月に長崎県知事より感謝状を贈呈されました。



2. 自治体紹介



大村市
OMURA CITY



大村市長 園田裕史

【市長あいさつ】

大村市は、長崎県のほぼ中央に位置し、東に多良山系、西に大村湾と自然に恵まれた地形にあります。長崎県内の都市では唯一人口が増加を続け、約9万6千人の人々が生活する都市へと発展してきました。

市内には、世界初の海上空港である「長崎空港」や長崎自動車道の大村IC及び木場スマートICの2カ所を有するとともに、令和4年度には九州新幹線西九州ルートの開業を控えており、離島を含む長崎県内全域の高速交通の要衝として更なる発展が期待されています。

大村の歴史は古く、日本初のキリシタン大名・大村純忠は、1582年に初の公式ヨーロッパ訪問団「天正遣欧少年使節」をローマに派遣しました。また、大村は女性教育と障がい者福祉の発展に尽力した石井筆子など近代日本の礎を築いた幾多の偉人を輩出したまちでもあります。

「日本さくらの名所百選」の地に選ばれている大村公園では、春には国指定天然記念物であるオムラザクラをはじめ、約2千本の桜が咲き誇り、多くの観光客でにぎわいます。また、初夏には、約30万本の花菖蒲が見ごろを迎え、花のまち大村を彩ります。

本年10月、県立図書館、市立図書館、大村市歴史資料館を合築した複合施設「ミライオン」が開館しました。図書の収蔵能力は約202万冊で、九州では最大規模を誇り、全国でも6番目の規模となります。さまざまな学びを支える知の拠点として、未来に向けた“出逢い、にあふれた施設に多くの人々が訪れています。

【自衛隊との関わり】

本市には、海上自衛隊第22航空群が所在する大村航空基地をはじめ、陸上自衛隊第16普通科連隊等が配置された大村駐屯地、第7高射特科群等が配置された竹松駐屯地があります。3部隊とも日本を取り巻く安全保障環境の変化を踏まえ、各種事態に即応するために任務に就かれています。また、近年多発する大規模災害発生時には、救援・復旧等の活動に迅速に対応されています。

特に、海上自衛隊第22航空群によるヘリコプターでの救急患者搬送は、離島を多く抱える本県にとって、必要不可欠なものとなっています。

3部隊の皆様には、本市の夏の風物詩である「おおむら夏越まつり」をはじめ、市内の各種行事に積極的に参加いただいています。また基地開隊以来、各部隊の開隊記念行事で行われる基地祭等、長年にわたって積極的に市民との交流の機会を設けられており、市民と自衛隊の強い絆が築かれています。

本市としましては、市民と自衛隊との良好な信頼関係を、今後もさらに深め、市民と基地が共存するよりよいまちづくりをすすめていきます。





登録につながる歴史は大村純忠から始まった。

世界遺産と純忠

世界遺産 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のはじまりは大村から。

ポルトガル船の入港地として拓かれた大村領横瀬浦で、戦国大名・大村純忠は、トレス神父により洗礼を受けた。洗礼名「ドン・バルトロメオ」。日本初となるキリシタン大名の誕生である。純忠は、ヨーロッパとの窓口となる長崎港も拓き、多くのキリシタンが住んだ。その長崎港から聖地・ローマへと旅だった「天正遣欧少年使節」(写真)は、伊東マンショ、千々石ミゲル、原マルチノ、中浦ジュリアンの若き少年たちであった。大村純忠は戦乱の世をキリスト教と共に歩み、数々の先駆的行動を起こした。そうした歴史事象に触れずして、長崎の大きな遺産の本質にたどり着くことはできない。世界遺産へとつながる、長崎キリシタンの歴史。その壮大な物語は、この大村から始まっている。

※大村市には関連遺産の「よしみちスポット」が多数あります。



大村市
OMURA CITY

3. 業務紹介

○業務紹介 管理部業務課○

九州防衛局管理部業務課では、管内で発生した米軍人等による事件・事故の初動対応、その損害賠償や米軍の訓練移転に必要な役務等の調達支援、自衛隊施設から発生する施設発生物品の管理などをおこなっています。

～主な業務内容～

1. 損害の賠償

在日米軍人等による事件・事故などにより、ケガや財産に損害を与えた場合に、被害者の方への損害賠償などを行います。



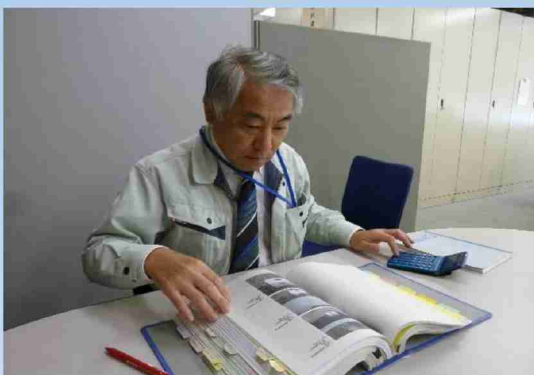
事故車両の状況確認



賠償額算定業務

2. 施設発生物品などの管理及び処分

自衛隊施設での建設工事などにおいて、既存施設の取り壊しなどで鉄や銅などの金属が発生します。これらは産業廃棄物ではなく施設発生物品として管理し、一般競争入札によって売払いを行います。



数量等確認業務



物品売払いの現場確認

4. インフォメーション

日米共同訓練『オリेंट・シールド19』の支援

陸上自衛隊と米陸軍による日米共同訓練『オリेंट・シールド19』が8月26日～9月23日まで、熊本県の健軍駐屯地、大矢野原演習場、鹿児島県の奄美駐屯地などで実施されました。本訓練は、陸上自衛隊及び米陸軍の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する場合における相互連携要領を実際に行動することにより、演練し、共同対処能力の向上を図ることを目的とし、実施されたものです。陸上自衛隊からは、第4師団第16普通科連隊を始めとする約950名、米陸軍からは、第33歩兵旅団戦闘団第2-106騎兵大隊を始めとする約950名がそれぞれ参加しました。

同訓練の実施に当たり、九州防衛局は、8月22日～9月26日の間、職員を派遣し、九州防衛局現地連絡所を陸上自衛隊健軍駐屯地内に開設するとともに、関係自治体等に訓練の情報の提供などを行いました。同訓練は、期間中、事故等もなく無事に終了しました。

九州防衛局としては、訓練の実施に当たっては、地元自治体、周辺住民の方々の御理解と御協力が不可欠であると考えており、今後とも地元自治体、周辺住民等の方々の不安や懸念を解消すべく適切な情報提供等を行うなど誠心誠意努力してまいります。



▲現地連絡所の様子



▲共同戦闘射撃の様子



▲訓練参加者による集合写真

「令和元年 西部方面隊記念行事」で広報活動を実施

9月29日(日)、陸上自衛隊健軍駐屯地(熊本県熊本市)において陸上自衛隊西部方面隊の創隊64周年を祝う「令和元年 西部方面隊記念行事」が開催されました。敷地内には、16式機動戦闘車、10式戦車、水陸両用車(AAV7)、12式地对艦誘導弾発射機などが展示され、約2万6千人(主催者発表)の来場者で賑わう中、九州防衛局は、会場内にブースを設置し、広報活動を行いました。

ブースでは、防衛白書クイズ、航空機等のペーパークラフトの展示・配布、自衛隊災害派遣等のパネル展示、まんがで読む防衛白書、数字で見る防衛省・自衛隊、九州防衛局の広報誌「きゅうしゅう」をはじめとする防衛省各種パンフレットの配布などを行いました。時折の雨にもかかわらず、設置したブースに入りきれない程の多くの方々にお立ち寄り頂き、高い関心を集めました。

特に、防衛白書クイズのコーナーでは、正解すると戦車や機動戦闘車等陸上自衛隊の装備品やブルーインパルスがプリントされた缶バッジの新作がもらえるとあって、多くの家族連れや子供達がチャレンジしました。また、ペーパークラフトの展示では、多くの来場者が足を止め、細部まで丁寧に作られた作品に目を凝らしていました。更に、ブルーインパルスのパイロットと陸上自衛官の全身をかたどった顔出しパネルでは、家族連れなど多くの方々が見物を楽しんでいました。

九州防衛局は、今後とも防衛省の諸施策や自衛隊の活動について、より多くの方々にご理解頂けるよう分かりやすい広報に努めてまいります。自衛隊の各種イベントにて皆様のお立ち寄りをお待ちしています。



▲ブースは多くの方々で賑わっていました



▲お馴染みとなった防衛白書クイズコーナー



▲缶バッジは子供達に大人気でした

令和元年度 九州防衛施設地方審議会を開催

10月23日(水)、令和元年度九州防衛施設地方審議会が、田中里美会長をはじめ委員6名の出席を得て開催されました。

今回は、「築城基地における米軍再編について」の概要説明が担当者から行われました。

その後、委員の方々は、航空自衛隊築城基地の視察を行いました。



▲審議会の様子



▲田中会長の挨拶



▲廣瀬局長の挨拶



▲築城基地にて記念撮影

令和元年度 在日米軍従業員永年勤続者表彰式

10月29日(火)、米海軍佐世保基地内の施設「ハーバービュークラブ」において、令和元年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が行われました。

この表彰式は、佐世保地区に所在する在日米軍施設に永きに亘り勤務された従業員の方々に対し、その労をねぎらい、併せて労働意欲及び作業効率の向上を図ることを目的として、日米共催で行っているものであり、本年度は142名の方々が表彰されました。

この表彰式には、来賓として長崎県を始め、佐世保市、西海市を代表する方々などにご臨席いただきました。まず、日米両国の国歌吹奏後、主催者挨拶として廣瀬律子九州防衛局長及びブラッド L. ストーリングス米海軍佐世保基地司令官がそれぞれ式辞を述べられました。引き続き、勤務年数に応じ、40年、30年、20年、10年ごとにそれぞれの代表者に廣瀬局長、ストーリングス司令官から表彰状と記念品が授与され、最後に被表彰者を代表して、米海軍横須賀艦隊補給センター佐世保支所の木下正之氏が「被表彰者142名を代表し、九州防衛局長及び米海軍佐世保基地司令官並びにご来賓の方々に感謝の意を表し、これからも良好な日米両国関係を維持するため、一層努力する。」と答辞を述べられ、厳粛な雰囲気の中で、式典は滞りなく終了しました。



▲廣瀬律子九州防衛局長の式辞



▲ブラッド L. ストーリングス 米海軍佐世保基地司令官の式辞



▲表彰状及び記念品の授与



▲被表彰者代表の答辞

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

夜間及び休日の連絡先

電話:(092)483-8832 FAX:(092)472-1959

・平日は17時15分から翌朝8時30分まで、
休日は終日。